令和4年度羽曳野市事務事業評価シート(令和3年度実施事業)

事務事業コード 422-02-01

事務事業名		中学校給食提供事業		事務の種類		自治事務(任意のもの)	
担当部署名		食育・給食課		連絡先		内線4102	
総合基本計画	施策目標	4	未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち	予算科目	会計	1	一般会計
	施策	2	学校教育		款	10	教育費
	施策の方向	2	安心して学べる教育環境づくりの推進		項	6	保健体育費
事業の概要	対象 (誰を・何を)	市立中学校及び義務教育学校後期課程の生徒					
	目的 (どうしたいか)	適切な栄養の摂取による心身の発達、健康の保持増進のために、お弁当を持参しない生徒に栄養バランスを考えた食事を提供する。生徒に「食」の正しい知識を習得させ、適切な判断能力を養う。					
	手段 (事業内容)	保護者(生徒)がスマートフォンから予約システムにアクセスし、給食を利用する日を選んで申込み「選択制」給食。給食の提供は、民間調理場活用のデリバリー方式で実施。					

予算・決算額		(単位:千円)			≪主な内訳(令和3年度決算)≫	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	【事業費】 調理業務等委託料27,200千円 (債務負担)調理業務等委託料 17,084千円 賄材料費9,631千円 【特定財源】	
当初予算額	事業費	26,155	32,155	51,031		
決算額	事業費	41,963	57,661	-		
	特定財源等	52	0	-		

活動指標		(事務事業の目的を達成するために、何をどれだけ行ったか)		
指標名	喫食数	単位	食	
指標の説明	1年間で提供した給食数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		40,000	51,000	51,000
実績		51,448	83,311	-

成果指標		(事務事業を実施したことにより、目的がどの程度達成されたか)		
指標名	栄養バランスのとれた給食の提供数	単位	食	
指標の説明	栄養バランスのとれた給食を提供した数			
		令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標(見込)		40,000	51,000	51,000
実績		51,448	83,311	-

≪事業の参考数値等≫
 中学校生徒数(各年5月1日現在)
 【R02】2,652人
 【R03】2,636人
 【R04】2,575人

個別評価				
妥当性	本事業を市が行うのは妥当か。	市が実施すべき義務的的事业である。		A
	対象範囲や水準、手段は妥当か。	妥当である。		
	事業を廃止・休止した場合の影響は大きいか。	影響は大きい。		
有効性	目的に対する成果は上がっているか。成果向上の余地はあるか。	期待通りの成果が上がっている。		A
	類似事業との統廃合はできるか。	統廃合はできない。/類似事業はない。		
	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	大きく貢献している。		
効率性	事業費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		A
	人件費削減の余地はあるか。	削減の余地はない。		
	受益者負担の割合は適正か。	適正な受益者負担である。		

総合評価	現状維持
(担当部局による総合評価の理由や課題)	
中学校給食は、安全面、衛生面及び栄養価に配慮された昼食のひとつの選択肢として定着している。また、中学校給食を身近に感じてもらえるよう取り組んでいる。 令和3年度は、令和2年度同様、新型コロナウイルス感染症対策として、保護者負担半額化を実施したため、決算額が高い水準となっている。	

今後の改善内容
(令和4年度以後の事業実施への改善内容)
引き続き、「食の大切さ」への関心、「食」の正しい理解が深まるよう取り組むとともに、全員給食の実施に向けた検討をすすめる。 また、保護者負担半額化事業は令和3年度で終了となることから喫食数の減少が予想されるが、令和4年度実施となる「多子世帯学校給食費助成事業」が開始されるため、令和3年度同様の喫食数を目標数とする。